

# glolab

“逆境”を成長機会に。

“逆境”を成長機会にして、自発的にチャレンジし、  
学んでいくことで成長（grow）してほしい。

**“global” + “lab”**  
(グローバルな人になるための実験室)

# glolabとは？

## 団体紹介



- 対象： 外国ルーツ青少年(主に15～23歳)
- 設立： 2014年より活動開始、2020年にNPO法人化予定
- 活動内容： ①キャリア教育、②多文化コミュニティ創出
- 助成事業
  - ・ ボランティア・市民活動支援総合基金「ゆめ応援ファンド」採択(2019～2021)
  - ・ 休眠預金活用法に基づく新規企画支援事業「外国ルーツ青少年未来創造事業」採択(2020～2023)

## 代表略歴

- 景山 宙（共同代表）
  - ・ 6歳で中国から移住、小中高を栃木県の公立校で学ぶ。
  - ・ 東工大院卒。技術経営修士(MOT)。
  - ・ 日系メーカーにて海外事業のM&A、マーケティング、商品企画に従事。
  - ・ 講演履歴
    - 文化庁委託事業「日本語教室ボランティアのための理解を深める講座」(2016年, 明治学院大学)
    - 多文化共生ワークショップ「外国にルーツを持つ若者たちの今・仕事・夢」(2015年, 明治大学)
- 柴山 智帆（共同代表）
  - ・ 外資系半導体メーカーを経て外国にルーツを持つ子どもたちの高校進学を支援するNPOに勤務。
  - ・ NPO退職後は、日本語教師として難民の子どもたちやビジネスマンに日本語を教えている。
  - ・ 外国にルーツを持つ子ども/若者支援がライフワーク。

# 外国ルーツとは？

外国にルーツをもつ青少年とは、国籍や出生地にかかわらず、外国人の祖父母や父母をもつ青少年のこと。外国ルーツ青少年の来日時期や来日理由は様々であり、家庭環境や経済状況も多様です。



外国籍の  
子ども

16歳の都立高校1年生。先に来日した両親に14歳のときに呼び寄せで来日。日本の中学校で2年生と3年生を過ごした。レストランで働いている両親は、全く日本語が話せないので、家のことは、すべてまかせられている。日本の学校の授業にはついていけず、将来が不安。相談する相手も、時間もない。

19歳の都立高校2年生。高齢の日本人と母親が再婚。母国では勉強できたし、向学心・向上心が強いので大学に行きたい。しかし、経済的に厳しいため、両親が理解してくれていない。友人や先生に家庭の悩みを相談しづらい。



中国  
帰国者

国際結婚間  
の子ども

在日  
コリアン

日系人

# 外国ルーツ青少年が抱える課題とは？

高校中退

日本人の平均の**7**倍

- 学校での日本語指導が量・質ともに不十分
- 家庭で日本語に触れる機会が少ない
- 日本語力が不十分で、授業に付いていけない
- アルバイトに注力せざるをえず、十分な学習時間を確保することができない

日本語習得・教科学習  
の困難さ

孤立・日本社会への不適応  
メンタル面での問題

- 言葉の壁から生じる孤独感
- いじめによる母文化否定、日本への同化
- 日本語ができない親へのコンプレックス

高卒後の非正規雇用

日本人の平均の**9**倍

- 将来の目標や夢を描くことができず進路選択に向きあうことができない
- 高校卒業後の幅広い進路について学費・在留資格等を含めた情報収集がうまくできず、適切な進路選択ができない

進路選択の課題

教育や進路選択への  
親の理解不足

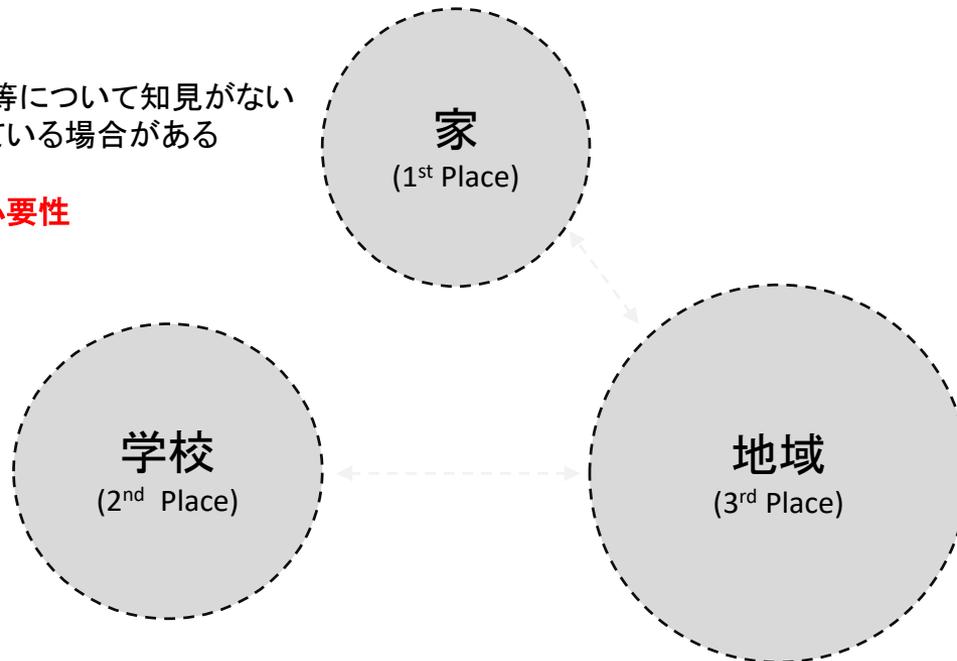
- 進路情報を得る手段が無い
- 親が子どもの教育に関して無関心
- 親自身の今後の生活の目途が立たず、子どもの将来を考える余裕がない

# 外国ルーツ青少年が抱える課題とは？

外国ルーツ青少年が人生観・キャリア観を考え、学ぶ場、そして、困った時に相談できる・助けてもらえる仕組みが求められています。

- 日本の教育事情等について知見がない
- 社会的に孤立している場合がある

➡ **情報提供の必要性**



- 個別の事情に対応できる時間がない
- “情報提供”以上のサポートができない
- そもそも、課題があることに気づかない

➡ **教員への啓蒙・研修の必要性**

- 高校入学後の学習支援やキャリア相談を行うNPO等がほとんどない
- 地域(コミュニティ)にアウトプットする機会がない

➡ **Third placeの必要性**

- 人生観・キャリア観を考え・学ぶ場
- 困った時に相談できる・助けてもらえる仕組み

# 求められる支援

将来像  
の提示

現状把握

問題の  
発見

問題の  
解決

求められる  
支援

- 進路情報の提供
- ロールモデルの提示(成功・失敗談の共有)

- 外国ルーツの生徒の発見
- 生徒の現状把握

- メンタリング
- カウンセリング  
(話を聞く)

- コーチング
- コーディネート  
(つなげる)

支援援上  
の課題

- 進路情報が集約されていない
- ロールモデルの経験が蓄積されていない

- 教員で全容把握が難しい
- 生徒が自己開示しない

- 教員に相談に乗る時間がない
- 問題を発見するための技術、知識の共有不足

- 事例の蓄積が少ない
- 弁護士等専門家との連携弱い

# 事業コンセプト

